

1. 天体望遠鏡の部品を確認する。



ここでは株式会社ビクセンのGP2 赤道儀とA105M 鏡筒を例に説明しています。実際に天体望遠鏡を使用する際には、それぞれの説明書の記述に従ってください。

2. 三脚と赤道儀を組み立てる。



三脚はしっかりと開いて立て、取り付け部分が水平になっていること、ぐらつかないことを確認する。赤道儀を三脚に固定してから、おもりを取り付ける。おもりはたいへん重いためじゅうぶん注意する。

3. 鏡筒・ファインダー・接眼レンズを取り付ける。

ファインダー
望遠鏡より広い範囲が見える装置である。ファインダーの視野の中央に目標天体を入れると、天体望遠鏡でとらえることができる。

接眼レンズ

北極星の方向に向ける傾いた軸

天体望遠鏡を支えている赤道儀には、北極星の方向に向ける傾いた軸と、それと直角になる軸がある。赤道儀は、天体の動きに合わせて望遠鏡を動かすことができる装置である。



鏡筒を落下させないに注意して取り付ける。
北極星の方向に赤道儀の軸 (-----) を向ける (極軸合わせ)。

操作のポイント

- 接眼レンズの近くにあるダイヤルを調整して、はっきり見えるようにピントを合わせる。接眼レンズによって倍率を変えることができる。
- 天体は地球の自転とともに望遠鏡の視野から外れていくので、北極星の方向に向ける軸を中心に回転させると、天体の動きに合わせて見ることができる。
- 接眼レンズにデジタルカメラを押し当てると簡単に天体の写真を撮影することができる。